

会津若松市長が来学

7月18日、

2013年大河ドラマ『八重の桜』の主人公、新島八重の出身地で物語の主な舞台となる福島県会津若松市の管家一郎市長が本学を訪問され、



八田英二学長、松岡敬副学長とともに記者会見が行われた。菅家市長は「東日本大震災で被災された方々に勇気や希望を与えられるドラマになればと願っている。同じ観光都市として、会津若松と京都の観光関連産業を盛り上げていきたい」と述べられた。八田学長は「新島八重という女性の生き方を全国に知っていただけの大きな喜び。震災の復興支援も含め、会津若松市とはできる限りの連携協力をしていきたい。今後は展覧会への資料提供や講演会への講師派遣、修学旅行生の受け入れなど、様々な場面での協力を考えていく」と語った。

※8月6日、任期満了に伴い退任されました

(広報課)

「同志社フェア in 函館」開催

6月12日～14日、同志社大学の原点ともいえる新島襄脱国の地で「同志社フェア

in 函館」が開催された。

フェアは6月12日、ロワジールホテル函館で開催の「全国同志社卒業生との集い」で幕を開けた。開会の挨拶を兼ねて八田英二学長から本学の教育改革についての話があり、次に、函館水産高校の生徒による寸劇で「新島襄が米国へ脱国する日の夜」が再現された。劇の最後に生徒から「今後も新島の脱国の精神(チャレンジ精神)でいろいろと活動していきたい」と抱負が語られ、参加していた卒業生からは「新島の精神が地元高校生に影響を与えていることをうれしく思う。寸劇で演じてもらえるほどに親しまれていることを知って、感銘を受けた」との感想が聞かれた。続いての講演では、まずラグビー元日本代表の大八木淳史氏が「同志社から学んだこと―社会に活かせるラグビーのチームビルディング―」と題し、ラグビーを通じて、情熱や志を抱くことや社会貢献することの大切さを学び、今自分にできることから実践しているこ



とが熱く語られた。次に神学

部の本井康博教授から新島と函館、北海道との縁について、綿密な調査に基づいた説明がなされた。今回、校友会札幌支部からはバスをチャーターして40名近くの校友が駆けつけ、東北や東京、大阪、遠くは熊本からも参加があり、180名を超える参加者の母校に対する熱い思いを改めて感じた。

2日目の6月13日、「新島足跡ツアー―ゆかりの地を訪ねて―」が行われ、本井教授の解説を聞きながら、海外渡航碑や新島が函館で最も長く滞在した函館ハリストス正教会、脱国した夜の出發地である山ノ上大神宮、新島の遺髪を保管している函館千歳教会などを巡った。夕刻には、同志社が生んだ日本の社会福祉の先駆者である留岡幸助(1864-1934)の生涯をたどった映画「大地の詩―留岡幸助物語―」を鑑賞した。

最終日の6月14日には、「新島襄海外渡航の地碑」碑前祭が函館市の後援を受けて行われた。参加者で讃美歌を歌った後、聖書朗読と祈



館の地で開催いただくなど、同志社と函館市のつながりを強く感じる。今後ますます交流が盛んになることを願っている」とご挨拶いただいた。その後、カレッジソングを合唱し、祈禱の後に献

花が行われ幕を閉じた。今回の同志社フェアの開催を機に、同志社と函館との絆がますます強くなったように思う。

(校友・父母課)

オープンキャンパス 2011開催

7月24日は京田辺キャンパスで、7月31日は今出川キャンパスで、オープンキャンパスを開催した。晴天に恵まれ、両キャンパスで約14,400人が来場した。2013年のキャンパス再編の影響か、特に今出川キャンパスでは約1,300人の増加であった。

両日とも、教員による学部・学科紹介、模擬講義、一般入試の英語の問題を教員が解説する「同志社の英語を学ぼう!」、入試説明会、AO入試説明会など



写真提供:同志社スポーツアトム編集部



硬式野球部、 関西学生野球優勝

硬式野球部は5月30日（わかさスタジアム京都）、31日（皇子山球場）に行われた関西学生野球春季リーグ戦で、立命館大学に1戦目6-3、2戦目7-5と連勝し、勝ち

初優勝を飾った。全日本大学対抗4連覇中の早稲田大学が予想では圧倒的に優勢だったが、同志社大学の結束力がこれを跳ね返し、他大学も応援に飛び入るほどのプレーでチームとして存分に力を発揮し、会場を盛り上げた。

今季、「学生」と名のつく大会は個人団体とも全て優勝をおさめ、8月6日〜11日に埼玉県で行われた全日本学生選手権大会に全てを懸け臨んだが、団体戦決勝で日本体育大学に敗れ、悲願達成とはならなかった。

を実施した。個別相談ブースでは、受験生や保護者からの様々な質問に、教職員、在学生が丁寧に対応した。また、初めて保護者対象の説明会を



入学課長が行ったが、こちらも盛況であった。その他、研究室、実験施設の紹介など学部独自の企画イベントや図書館などの施設紹介、キャンパスツアーなども行われ、熱気あふれる充実した2日間となった。

（入学課）

点4で並ぶ近畿大学を勝率で上回り、3季連続25度目の優勝を果たした。その結果、2年連続で全日本大学野球選手権記念大会への切符を手に入れた。

今年は昨年の雪辱を果たすべく、九州共立大学との初戦に臨んだが、全国大会の壁は厚く、相手投手の前にわずか2安打に抑え込まれ、3-0で完敗を喫した。

このチームで日本一になる最後のチャンス。気持ちを切り替えて、今秋、再び全国の舞台に戻ることを期待したい。

（スポーツ支援課）

ソフトテニス部、 全日本大学ソフトテニス 王座決定戦優勝

6月7日〜9日に東京体育館で行われた第31回全日本大学ソフトテニス王座決定戦で、男子団体は決勝で強豪・早稲田大学を3-0のストレートで下し、念願の



写真提供:同志社スポーツアトム編集部

増田が、清水を4-0で破り、初優勝を果たした。全日本学生選手権大会では58年ぶりの優勝を逃したが、ダブルスとシングルスとの2冠を達成し、今大会を締めくくった。

（スポーツ支援課）

しかし、翌日のダブルスでは、増田・柴田のエースコンビが優勝を掴むと、最終日のシングルス決勝でも同志

は巡行の最後尾を飾る南観音山。夏空の下、観衆が拍手と歓声で迎える中を3時間かけて練り歩いた。参加した留学生にとっては、日本の伝統文化や精神性に触れるとともに、鉾町の人々と交流できたことも貴重な経験となったようで、このような機会に恵まれたことに感謝している、と晴れやかな表情を見せていた。

（広報課）

留学生が 祇園祭山鉾巡行に参加



7月17日、国際教育インスティテュートやビジネス研究科の留学生らが、祇園祭のハイライトである山鉾巡行の曳き手として参加した。本学留学生が曳き手に参加するのは今年で7年目となり、曳山

本年度は「大学生活を始めるあなたへ〜尾木ママ愛のメッセージ〜」と題して、教育評論家・法政大学教授の尾木直樹氏に講演いただいた。近年メディア露出が増え、「尾木ママ」としてのイメージが強い同氏だが、日本で最初にいじめ・ひきこもりといった社会問題の調査を実施した、子どもの心の問題についての第一人者である。講演では、海外と比較した日本の教育の現状について説明があり、海外から選られてしまっている現状を打破するために「グローバルな視点」を育んでいかなければ



ればならない。高校までのように、教えられたものを素直に聞くだけの「生徒」ではなく、自ら主体的に学ぶ「学生」として、考える力を培っていかなければならないと、温

おり、博士課程後期課程の学費（入学金、授業料、教育充実費、実験実習料）相当額を、原則として各研究科の収容定員内で有資格者全員に給付するものです。新入生に加え、在学生にも適用します。給付期間は1年間ですが、所定の継続審査により、標準修業年限を上限に継続することができます。

なお、一貫制博士課程の学生については、2年以上在学している入学時満32歳未満の者に適用します。

（今出川校地学生支援課奨学係）

かくも力強いメッセージが送られた。当日は500人を超える来場者があり、盛況のうちに終了した。講演後行ったアンケートによると、満足度が高く、来場者にとって非常に有意義な講演会となったことがうかがえた。

（今出川校地学生支援課）

「博士後期課程若手研究者育成奨学金」制度を新設

同志社大学が研究力のある大学院として国際的に高い評価を獲得するとともに、本学出身の研究者が国内外の教育研究機関等において活躍することが、本学の教育研究水準の更なる発展に寄与するものと考え、優秀な若手研究者を育成することを目的として、2012年度から「同志社大学大学院 博士後期課程若手研究者育成奨学金」を新設します。

この奨学金制度は、博士学位取得を目指す入学時満34歳未満の者を対象として

MA Sheffield-Doshisha Law/Politics ダブル・ディグリープログラム協定締結

法学研究科とシェフィールド大学 School of Law ならびに Department of Politics (イギリス) は、2012年度から開始するダブルディグリープログラムの協定を締結した。

同プログラムに参加すると、標準修業年限2年間のそれぞれ1年を同志社大学およびシェフィールド大学で学ぶことになり、その間に所定の単位を取得した上で修士論文を提出すると、同志社大学の修士号とシェフィールド大学のMAを同時に取得することができる。両大学が協働で提供するプログラムによりトレーニングすることで、国際的なセンス



を身につけ、地球規模での問題の発見と解決に貢献できる人材が育つことが期待される。

2012年4月の開始に向けて準備を進めているところであるが、プログラムの詳細は法学研究科ホームページ <http://law.doshisha.ac.jp/index.html> をご覧ください。

（法学研究科）

同志社大学

震災救援義援金のご報告

キリスト教文化センターは、皆さまからお寄せいただいた東日本大震災の災害救

援のための義援金を次のとおり送付しました。

募金額…952,678円
送付先…日本赤十字社
送付日…2011年5月16日

なお、募金箱の設置は春学期末で終了しましたが、引き続き両校地キリスト教文化センターで受け付けています。

（キリスト教文化センター）

■新任教員紹介

この度、10月より新たに次の先生方をお迎えしました。

※脳科学研究科は2012年度より開設。

- ①所属 ②職名 ③主な担当科目



安永 正昭
あすなが まさあき
①司法(法務)
②特別客員教授
③民事法演習Ⅱ



御園生 裕明
みそのひろあき
①脳科学研究科設置準備室
②教授
③※



坂場 武史
さかは たけし
①脳科学研究科設置準備室
②教授
③※

2011年度 卒業式・学位授与式 2012年度 入学式

入学式				卒業式・学位授与式(学部)(大学院) 留学生別科修了式							
寒梅館 ハーディーホール		京田辺校地 デイヴィス記念館		場所	京田辺校地 デイヴィス記念館		栄光館			場所	
4月3日(火)	4月2日(月)	4月1日(日)		日時	3月22日(木)	3月21日(水)		3月20日(火・祝)		日時	
10時	16時	14時	12時	10時	13時	15時	12時30分	10時	15時	12時30分 10時	
全研究科	国際教育インスティテュート 日本語・日本文化教育センター 留学生別科	神学部、法学部 経済学部、心理学部	生命医科学部 グローバルコミュニケーション学部	商学部 理工学部	文学部、社会学部 政策学部 文化情報学部 スポーツ健康科学部	文化情報学部・文化情報学研究科 理工学部・工学研究科 生命医科学部・生命医科学研究科 スポーツ健康科学部・ スポーツ健康科学研究科	経済学部・経済学研究科 留学生別科	社会学部・社会学研究科 アメリカ研究科 グローバル・スタディーズ研究科 留学生別科	神学部・神学研究科 政策学部・総合政策科学研究科 司法研究科 ビジネス研究科	法学部・法学研究科 文学部・文学研究科 心理学研究科	学部・研究科

本学教員の執筆図書を紹介 図書館調べ(価格は税別)

- 人権の再問**
岡野八代 他執筆 法律文化社 3,000円

メディア用語基本辞典
渡辺武達 山口功一 他編 世界思想社 2,400円

深刻化する土壌汚染
里坂則子 他執筆 世界思想社 2,000円

「色」と「愛」の比較文化史
佐伯順子 著 岩波書店 3,000円

1ドル50円時代を生き抜く日本経済
浜矩子 著 朝日新聞出版 1,500円

日本の会社法(新訂第10版)
森田章 川口泰弘 他著 商事法務 3,300円

欧米諸国の「公務員の政治活動の自由」
佐伯祐二 他執筆 平文社 4,000円

権力と身体
荻野美穂 他執筆 明石書店 4,800円

**「美しさ」と「若さ」を保つ
アンチエイジングのすすめ**
米井嘉一 著 青春出版社 600円

糖化による疾患と抗糖化食品・素材
米井嘉一 監修 シーエムシー出版 6,500円

会計認識領域拡大の論理
志管理 著 森山書店 2,800円

イスラム 癒しの知恵
内藤正典 著 集英社 720円

Nature on the verge of her confine
塩尻恭子 著 大阪教育図書 3,200円

新しい公共と自治の現場
市川喜崇 他執筆 コモンズ 3,200円

Excelで学ぶ統計・データ解析入門
金明哲 他著 丸善 2,800円

自己制御における意識と非意識の役割
及川昌典 著 風間書房 5,500円

フイヒテ知識学の根本構造
中川明才 著 晃洋書房 2,600円

京都三大学 京大・同志社・立命館
橋本俊昭 著 岩波書店 2,600円

子どもの連れ去り問題
リンパ A ショーンズ 著 丸丸社 820円

刑事訴訟法 第四版
三井誠 編 東京大学出版会 4,800円

藩札の経済学
鹿野嘉昭 著 東洋経済新報社 3,800円

事例演習刑事訴訟法
古江頼隆 著 有斐閣 2,500円

戦時期朝鮮の転向者たち
洪宗郁 著 有志舎 5,400円

「多文化共生」は可能か
山田礼子 他執筆 勁草書房 2,800円

確認刑法用語250
川崎知巳 十河太朗 他著 成文堂 500円

公的ガバナンスの動態研究
新川達郎 編執筆 風間規男 今川晃 市川喜崇 他執筆
ミネルヴァ書房 5,500円

パサージュ文化論
岡林洋 編著 榎本朝子 水谷誠 伊達立嗣 他著
晃洋書房 2,800円

インフラストラクチャー工学概論
雨谷昭弘 編著 岩井誠人 他著 オーム社 3,000円

ライフサイクルとリスク
橋本俊昭 編著 東洋経済新報社 3,200円

安心して好きな仕事ができますか
橋本俊昭 編著 東洋経済新報社 1,600円

会社法第2版
伊藤靖史 他著 有斐閣 2,800円

グローバル社会の国際関係論 新版
大矢根聡 編 有斐閣 2,000円

福祉国家と憲法構造
尾形健 著 有斐閣 7,000円

ASEAN再活性化への課題
浅野亮 他執筆 明石書店 2,700円

平安文学選
岩坪健 他編 和泉書院 1,600円

Political economy of Japan
林敏彦 編著 放送大学教育振興会 3,800円

改訂版 市民と社会を考えるために
林敏彦 他執筆 放送大学教育振興会 2,200円

改訂版 消費者と証券投資
林敏彦 他編著 放送大学教育振興会 2,100円

改訂版 現代の生活問題
中川清 著 放送大学教育振興会 2,500円

事例研究 行政法 第2版
金子正史 他編著 佐伯祐二 他著 日本評論社 3,700円

「韓国併合100年を問う」
小川原宏幸 他執筆 岩波書店 3,800円

「韓国併合100年を問う」思想・特集・関係資料
小川原宏幸 他執筆 岩波書店 3,400円

未完成の維新革命
伊藤彌彦 著 明書房 3,000円

Ett stimulerande nytt hem

Jag har spenderat knappt ett halvår på Kyotanabe campus nu, och mitt nya liv i Japan börjar så sakteliga bli rutin. Men nästan varje dag upptäcker jag något nytt som jag inte sett eller som jag inte kände till innan. Jag tror att det är alla dessa nya upplevelser som håller mig alert och inspirerad, nästan jämt på gott humör och ständigt öppen för nya intryck. Min forskning handlar om effektiv syntes av oxaporfyrin, en typ av molekyler som kan bli intressanta inom cancerforskning.

Under 2007-2008 studerade jag i Japan som utbytesstudent, och jag kan inte ge någon enkel anledning till varför jag valde just Japan, men jag hade gott om anledningar till att vilja komma

tillbaks. Det jag gillar mest förutom alla nya upplevelser är att alla är så snälla, och tänker mer på varandra än på sig själva. Det som lockade med Doshisha University var fokuset på internationalism som funnits ända sedan universitetet grundades.

Jag läste någonstans att av alla universitetsstudenter i världen är det bara 2% som studerar en del av sin tid utomlands. Eftersom det är en så fantastisk upplevelse på många sätt önskar jag att fler studenter tog chansen. Tiden vid universitetet är förmodligen det bästa tillfället man någonsin får att leva under en längre tid i ett annat land. Missa inte den chansen!

Jonas Sandell

刺激的な新しい故郷

京田辺キャンパスに来て約半年が経った今、日本での新しい生活が日常へと入りつつあります。ですがほぼ毎日、何かしら大小の見たこともなく知りもしなかった発見や経験があります。これらの経験が自分自身に閃きと気づきを持ち続けさせ、いつもよい気分であられ新しい事に対してオープンになれていると思います。現在は癌治療の研究に重要な役割を果たせる分子の一種であるオキサポルフィリンの効率的な合成の研究をしています。

2007年に学部交換留学生として初めて日本へ留学した理由を簡単には説明できませんが、数え切れないほどの理由があって再び戻って来ました。次から次へと起こる新しい経験のほかに、私は日本

人の優しさや他人を尊重する習慣を一番心地よく思っています。そして同志社大学が創立以来、国際主義に重点を置いていることは私に訴えるものがありました。

何かで読みましたが、世界中の学生のうち、たった2%しか留学していないそうです。私は留学して以来、多くの素晴らしい経験をしているため、もっと他の学生にもこのような機会を得てほしいと思っています。大学時代は外国へ行き、生活するのに最適な時間ではないでしょうか。チャンスを逃さないでください!

ヨナス・サンデル

2011.4 ~ 工学研究科 工業化学専攻 国際科学技術コース
博士課程(前期課程)に在学



JRA（日本中央競馬会）調教師

池江泰寿さんに聞く

今回の同志社人

池江泰寿さん

【1993年 文学部社会学科
社会福祉学専攻卒業】

1969年生まれ、滋賀県出身。父は史上最強馬ともいわれるディーブインバクトなど数々の名馬を世に送り出した名伯楽・泰寿郎氏。大学卒業後、2003年に超難関の調教師試験を突破し、翌04年池江泰寿厩舎を開業。3年目にGI初勝利。08年には最多勝利調教師に輝き、09年にはドリームジャーニーで有馬記念を制覇。今年オルフェーヴルで念願の日本ダービー初制覇を果たした。

宿野部 ●調教師を目指しながら大学に進学されたのはなぜでしょう。

池江 ●当初は、騎手出身でなければ調教師にはなれないと思っていたので騎手を目指していたのですが、体が大きくなり、中学2年生の時に騎手になるのを断念しました。調教師の夢もあきらめなければならぬのかと落ち込んでいた時、父が、大学を卒業して調教師になった人がいることを教えてくれたのです。大学受験のための努力が調教師試験にも活かせるはずだとも考えました。

宿野部 ●調教師のどういったところに魅力を感じられたのですか。

池江 ●騎手が馬と関わるのはレースを中心とした短期間ですが、調教師は馬の交配から引退まで、長いスパンで携われるところが魅力です。競馬は「馬七人三」といいますが、調教師は馬の「七」の部分を担当しているのです。自分の方針で馬を調教した結果がレースに出るのでから責任は重大です。

宿野部 ●プレッシャーもあるのでしょうかね。

池江 ●それはすごいものがありますよ。レースでいい結果を出せなかったり、馬に怪我をさせてしまったりと大変です。馬主に厩舎を替えられることも少なくありません。しかし、怪我をすることと勝つことは表裏一体なのです。怪我をする一歩手前、ぎりぎりのところまで追い込まないと、レースで勝てる強い馬にはなりません。その厳しい判断するのが調教師

宿野部 ●まず同志社大学で社会福祉学を専攻された理由を教えてください。

池江 ●姉が同志社国際高校に通っていたこともあり、同志社大学が第一志望でした。私は10歳から調教師を志していたのですが、調教師の仕事に直接関係がある学部はありません。それなら、高齢化社会を迎えるにあたって福祉を学んでおけば将来役に立つのではないかと思ったのです。

宿野部 ●10歳で調教師を目指されたというのは、何かきっかけがあったのですか。

池江 ●父の影響でしょうね。父は元騎手で、引退してから調教師になり、私が10歳の頃に厩舎を開きました。私は物心がつく前から騎手に憧れていましたが、父の厩舎に出入りするようになってからは、自分も調教師の道に進みたいと思うようになっていました。

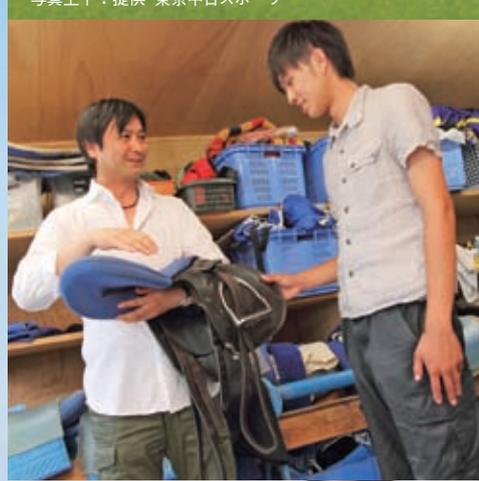
インタビュー
宿野部 誉時 さん
【経済学部4年次生】



左奥が池江泰寿さん。
今年の第78回日本ダービーを
制覇。手前は父・泰郎氏。



写真上下：提供 東京中日スポーツ



です。実際に馬の世話をする厩務員が母
親なら、調教師は父親のような存在とい
えます。

宿野部 ● 厩務員をされていた時と調教師
の今とは何が違うのでしょうか。

池江 ● 調教師は厩舎を経営して従業員を
抱えているので、彼らの生活を保障しな
ければならないということです。また、ト
レーニングメニューだけでなく、えさや厩
舎の設備をどうするかといった細部にわ
たるすべてを最終的に決断し、その責任を
負います。

宿野部 ● 特に大変なのはどのようなこと
ですか。

池江 ● 従業員をはじめとする「人」を動か
すことが一番難しいですね。人のマネジメ
ントと馬の調教は連動していますから、調
教師の仕事は人のマネジメントともいえ
ます。人をうまく動かすことができれば、
馬もそれに応えてくれます。

宿野部 ● 調教師として喜びを感じるのは
どんな時ですか。

池江 ● 何ととってもレースに勝った時で

す。レースに勝つ喜びがあるからこそ、この
仕事をしているのですから。いやなことが
人生のうち9割くらいあったとしても、1
割の喜びに目を向けていけば、いやなこと
は気になりません。だから勝った時のVT
Rはよく見ます。学生生活でもいやなこと
はあるでしょう。社会に出ると、それが10
倍くらいに増えます。でも、生きていて1
割いいことがあるなら十分幸せですよ。

宿野部 ● 調教師としてのモチベーション
はどういうところにあるのでしょうか。

池江 ● 私はお金を稼ぐためにこの仕事を
しているわけではありません。強い競走
馬を育てたい、大きなレースで勝ちたい、
それが一番のモチベーションになっていま
す。モチベーションが高ければ頑張れる。頑
張ったら成績が上がる。勝負の世界はシン
プルです。

宿野部 ● これまでに勝ったレースで一番う
れしかったのはどのレースですか。

池江 ● それはもちろん日本ダービーです
ね。私は初出走初勝利だったのですが、そ
の時の馬は定年で引退された調教師の方
です。

の馬を引き継いだものですから、3週間
くらいしか携わっていませんでした。だか
ら初勝利の時は、うれしいというよりラッ
キーという気持ちでした。感激の度合いで
言えば、ダービーは別格です。馬の一生で
1度しかチャンスはないのですから。ダー
ビーを勝ったら引退してもいいと言う騎
手や調教師もいるほど、競馬界では特別
なレースです。父や幼なじみの武豊騎手か
らも「ダービーだけは違う」と聞かされて
きて、どう違うのかと不思議だったです
が、実際に勝ってみるとその違いがよく分
かりました。1度でもダービーを制してい
ると、調教師を引退する時に、自分はい
調教師人生を送れたと素直に言えると思
うのです。

宿野部 ● 日本ダービーを制した今、池江さ
んの調教師としてのさらなる目標を教え
てください。

池江 ● 同じ年にフランスの凱旋門賞とア
メリカのブリーダーズカップ・クラシック
の両方のレースで勝つことが究極の目標
ですね。



INTERVIEWER

しゅくのべ たかと き
宿野部 誉時さん 経済学部 4年次生

神奈川県川崎市出身。1年次から馬術部に入部し、副将を務める。昨年の第60回全日本学生賞典障害飛越競技大会で団体7位、個人では21位に入賞。来春からは繊維関係の専門商社に。商社マンとして、海外で活躍したいという夢への一歩を踏み出す。

大切なのは、責任の重さを考えて行動していくこと

中学の時に初めて競馬を見て、競馬学校に入りたいと思ったこともあり。高校時代には北海道の牧場に馬を見に行くほど馬が好きだったので、大学では迷わず馬術部へ入りました。同志社大学の馬術部は全国大会優勝経験もあるので、現在もそれを目指して頑張っています。池江さんの話からは、一流の人はこだわりを持っているということを感じました。日々大変なプレッシャーの中で仕事をすることや、すべての責任を自分が負わなければならない立場に立つことは、今の自分では想像もつきませんが、責任ある立場になった時のことを考えて行動していかなければいけないと思いました。何よりも努力することの大切さを再確認することができました。

宿野部 ● 将来的に外国の調教師免許を取ることもお考えですか。

池江 ● アメリカの調教師免許を取ることには考えていません。特にカリフォルニアは、冬は温暖で夏は涼しく、雨が少ないので、馬にとつては理想的な環境です。競馬はロサンゼルス近郊でも盛んですし、JRAを定年になった時に体力と気力があれば、カリフォルニアで調教師をやってみたいですね。

宿野部 ● 競馬の関係者に同志社の卒業生は多いのでしょうか。

池江 ● 調教師はもちろん、JRAの職員、スポーツ記者など、わりと多いですよ。同志社の卒業生は皆さん愛校心が強く、同志社OBというだけで親しくしてもらっています。今後も同志社から競馬関係の仕事

に就く人が増えるとうれしいですね。

宿野部 ● 学生時代のことをお聞きしたいのですが、振り返ってみて、どんな4年間でしたか。特に力を入れられていたことはありますか。

池江 ● あっという間でしたが、かけがえない4年間です。入学してからずっと、英語の勉強は続けていました。競馬の発祥の地であるイギリスで調教師の勉強をしたかったからです。フランス料理のシェフを目指す人がバリの三ツ星レストランで修業したいと思うのと同じです。留学のために色々なアルバイトをしてお金を貯め、夏休みになると2カ月ほどイギリスへ語学留学していました。そのため、馬術部を1年次で辞めざるを得なかったのは残念でしたけれど。

宿野部 ● 今になって学生時代にこうしておけばよかったと思うことはありますか。

池江 ● 同志社はすごく自由な校風といわれていますよね。自由ということは、その反面責任も問われるのですが、私は同志社の自由に甘えずぎていましたね。もっとやるべきこと、身につけるべきことがあったのではないかと思います。他学部の授業も履修できたのにしなかったのは、今思えばもったいないことです。

宿野部 ● そういったことも踏まえて、大学時代にこれはしておいた方がいいなど、在学生にアドバイスをお願いします。

池江 ● 学生時代は時間が潤沢にあるので、すから、楽をするような時間の使い方をしなくてもいい。語学の勉強や資格取得などのために有効に使えば、必ず役に立ちます。学生の間はあまり実感がなくてもいいかもしれませんが、社会に出た時に後悔しないよう、十分に準備をしてください。社会は厳しいですが、それを乗り越えるためには努力するしかありません。絶対に逃げてはいけません。逃げずに向き合う訓練を大学時代にしておくことが必要です。どんなことであれ、4年間続けた努力は、必ず社会に出てから生きてくるものです。

宿野部 ● くじけそうになった時もありましたが、4年間馬術部を続けてきてよかったと思うことができました。来年の就職を前に、刺激になるお話を伺うことができました。本日はどうもありがとうございました。



自分の力で会社を変えていきたい。 その思いが仕事への 意欲をかき立てる。

規模の大きい仕事をした気持が強

かったので、就職先は大企業と決めていました。広告代理店やメーカー、商社などからも内定をいただきましたが、当社を選んだ理由は、企業規模が大きく、光ファイバーのインフラを保持しているので将来性もあるから。加えて、私は、当時のNTT西日本の企業イメージを自身のキャリアクターとは正対である保守的な企業として捉えていました。タイプがまったく異なる企業だからこそ、自分が入社すれば会社をよりよく変えられるのではないかと考えたのが入社理由です。

入社後は4ヶ月のOJTの後、法人営業部で約2年間フロントSEを担当しました。会社に少しでも貢献したい、そのために収益を上げる仕事したいと考え、最も売上規模が大きい法人営業部を希望したのです。フロントSEは、営業に同行し、クライアントが抱える課題を解決するシステムの提案から構築までを担当する仕事です。社内では、営業とシステム開発を担当する技術チームとの橋渡しの役割も担います。入社したばかりで経験の浅い時期

でしたが、スケールの大きな業務を希望

していただくこともあり、大手自動車メーカーや家電量販店などのお客様を担当させていただきました。その際、数億円規模の案件を獲得し、システム構築を経験したことで、大きな自信を持つことができました。

その後、新サービスを開発するサービススクリーション部に異動しました。SE時代に培った経験を活かして、お客様が求める新たなサービスを創り上げることができるとは思いませんでした。ここでもお客様のパソンのトラブルを遠隔から解決するサービスや、当社のアクセスラインである「フレッツ光」とテレビやゲーム機等のネットワーク対応機器とを組み合わせて新しいライフスタイルを提供するサービスの検討、NTT西日本の次世代構想である「家まるごとデジタル化(家デザイン構想)」の戦略策定などに携わりました。

現在は、今年7月に配属された営業部営業企画部門で「フレッツ光」の販売戦略を立案する仕事に従事しています。私が目指す将来像は、NTT西日本の経

営に携わり、NTT西日本という会社をよりよく変えていく人材です。そのために、様々な職種を経験するゼネラリストタイプにキャリアアップし、既成の考え方や枠に捉われないこと、時代やトレンドに合わせた戦略・手法を選択できるビジネススキルを身につけることが必要だと考えています。

学生の皆さんへのアドバイスは、就職活動の準備は早めに取りかかることですね。面接対策や自己分析などもそうですが、ぼんやりと自分の将来像をイメージするだけでもかまいません。どんな人生を送りたいか、どんな仕事に就きたいか、それが決まっているだけでも大きなアドバンテージになりますから。

笹原 貴彦さん【2005年 商学部卒業】

NTT西日本(西日本電信電話株式会社) 大阪東支店
営業部 営業企画部門 商品戦略担当 主査

学生時代はアルバイトに精を出し、短期のものも含めて様々な職種を体験した。その中でもダイニングバーでは商才を発揮し、成果をあげ管理職にまでのぼりつめた。「仕事に多くの時間を投資したので、限られた時間を効率よく使う術とビジネス感覚が身につきました」という。その経験を強みに、就職氷河期にもかかわらず多数の内定を勝ちとった。

そんな自身の経験から、学生に対して「大学時代は人生の中ですごく貴重な時間。有意義に過ごすも無駄に時間を費やすのも自分次第。あとで振り返って後悔しない過ごし方をしてほしい」とアドバイスを送る。将来的な目標は経営に携わるポジションに就いて、NTTを革新的な企業にすることと語る。「目標は大きい方が楽しいですからね」と笑った。

回り道をして、 努力すればきつと夢は叶う。

学生時代に憧れていたのは、アナウンサーでした。マスコミセミナーに通い、卒業した1995年、テレビ大阪に就職しましたが、一般職採用の報道記者でした。入社1年目は、その年の1月に起こった阪神・淡路大震災の取材にかかり切りでした。2年目は主に行政と臓器移植について担当し、患者やドナー、双方の家族など、様々な方を取材。重病の子どもたちとも接しました。そこにあっただのは、中高・大と同志社に通い、何不自由なく暮らしてきた私の生活とはまるで違う世界でした。価値観、人生観が大きく変わり、そこから「心のケア」に関心を持つようになったのです。それでもアナウンサーになる夢は持ち続けていました。偶然見つけたNHK鳥取放送局のキャスター募集に応募したところ、運良く採用され、4年越しで夢を叶えました。

NHKでは夕方のニュースや昼の情報番組を担当するなど充実していました。同僚と結婚したのを機に退職、専業主婦になりました。しかし、働きたいという思いは日々募り、夫の転勤先の関西でフリーアナウンサーとして仕事を始めました。レギュラー番組を複数持たせてもらい順調だったものの、そのままアナウンサーを続けるか、それまでの人生経験やキャリアを活かしながら生涯携われる仕事に就くか考え、以前から関心を持っていた心のケアを行う臨床心理士を目指すことに決めました。仕事を続けながら大学院に通い、2年間必死で勉強して資格を取得しました。そして、臨床心理士としての就職先を選んだのが、海上自衛隊です。様々なストレスを抱えながら過酷な環境で国のために奮闘している人たちのお手伝いをしたいというのが動機でした。自衛隊は男性が95%ということもあって企業に比べて自殺率が高く、メンタルヘルス（心の健康）に組織的に取り組んでいます。私が所属している佐世保地方総監部では、100部隊約1万人の隊員に対し、5、6人のメンタルヘルスチームで年間2,500件にのぼる相談に対応しています。私たちのチームは通常、隊員の活動現場に向くことはありませんが、この度の東日本大震災ではより細やかなケアの必要性を感じ、実際に隊員がどのような活動をしているかを知るために現地入りし、その活動を体験してきました。他にも、自殺防止対策などの講習や、ストレスを抱えた隊員の人事の調整など

もメンタルヘルスケアの一環です。

海上自衛隊での仕事はやりがいがありますが、ここが私のキャリアのゴールとは考えていません。将来は、臨床心理士とマスコミでの経験を融合させた何らかの活動ができればと考えています。遠回りはしましたが、憧れのアナウンサーの仕事に携わりましたし、回り道に思えたテレビ大阪での経験も今の私を支えてくれています。1度くらい失敗してもあきらめず、回り道にしても努力すれば夢は実現できる。努力していれば助けてくれる人もいます。その信念が私の原動力です。

山下 吏良さん【1995年 文学部文化学科心理学専攻卒業】

海上自衛隊佐世保地方総監部
管理部メンタルヘルス担当幹部 1等海尉

テレビ大阪の新卒採用では、女子学生が600人も受験した中から1人だけ採用された。「学生時代に打ち込んだことは何か、なぜこの会社を選んだのか、会社に入って何をしたいのか、採用面接で問われるのはこの3点。会社が求めている人物像を見極めた上でアピールする。自分が希望する業界では何が必要とされているかを考え、キーワードを見つけ、ストレートにその言葉を使うのではなく自分のエピソードに置き換えて話すことがポイントです。ただ「明るく積極的に根性があります」と言っても説得力はありません」と、「落ちたことがない」という面接の必勝法を語る。海上自衛隊では臨床心理士として自身もストレスと向き合う日々を送るが、解消法はカラオケで歌うこと。多方面からの講演依頼にも「歌わせてくれないとしゃべらないと言っているんです」と笑う。昨年12月、「様々な悩みを抱えながら国防や災害救助の最前線に立つ隊員の実情を伝えたい」と、「女子アナ・吏良の海上自衛隊メンタルヘルス奮闘記」(講談社)を出版したことも話題を呼んでいる。



- 10月27日(木)《ヨーロッパの移民映画特集》『移民の記憶—マグレブの遺産』(1997年/仏/160分/ヤミナ・ベンギギ監督) 上映&トーク *詳細未定

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270
 ※内容は都合により変更となる場合があります。以降も毎週木曜日、映画上映等を予定しています。詳細はお問い合わせください。



クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールでは、映画史に残る名作を中心に様々なイベントを開催します。

【会場】寒梅館クローバーホール(地階)

【料金】本学学生・教職員はすべて無料/一般は催しにより有料(下記のとおり)

- 10月4日(火)《3.11以後の世界を生きるために》
17:00～『私のなかのヒロシマ』ほか
18:30～『一年の九日』
*入場無料
- 10月11日(火)《[+]上映会/石田尚志&牧野真》映画上映&トーク *詳細未定
- 10月18日(火)《ミッシェル・ドネダ、ル・カン・ニン、齋藤徹
秋ジャパントア— October Road '11》19:00～
出演:ミッシェル・ドネダ(ソプラノサクソ)、
ル・カン・ニン(パーカッション)、齋藤徹(コントラバス)
ゲスト:岩下徹(ダンス)、イサベル・デュトア(ボイス、
クラリネット)、ベルトラン・ゴゲ(サクソ)
*500円均一
- 10月25日(火)《ヨーロッパの移民映画特集》
『反抗のとき～イギリスを揺るがすアジア音楽旋風～』
(2003年/米/77分/ヴィヴェク・バルド監督)上映&トーク
*詳細未定

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270
 ※内容は都合により変更となる場合があります。以降も毎週火曜日、映画上映等を予定しています。詳細はお問い合わせください。



bふらっとプログラム

- 【会場】京田辺校地ハローホール 【料金】入場無料
- 10月4日(火) ギター・チェロ・アコーディオン トリオバンド「ザツハトルテ」
 - 10月18日(火) 映画上映 「パイレーツ・オブ・カリビアン/生命の泉」
 - 11月18日(金) オンド マルトノコンサート「市橋 若菜」
 - 12月2日(金) 映画上映 「SUPER 8」
- ※時間は決まり次第HP等でお知らせします。
 【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課 TEL:0774-65-7413

♪観に行こう聴きに行こう♪

—学生団体10月～11月の活動予定—

- 【寒梅館ハーディーホール】
- 10月22日(土) ピアノ研究会「OB・OG合同コンサート」
15:00～(14:30)
 - 10月26日(水) 軽音楽部「後期コンサート」 15:00～(14:30)
 - 10月30日(日) マジック&ジャグリングサークル Hocus-Pocus
「京都奇術競演祭」 17:00～(16:30)
 - 11月3日(木) KOREA文化研究会「フレンドシップ・コンサート」
時間未定、1,000円予定
 - 11月5日(土) ギタークラブ「第51回定期演奏会」
17:00～(16:30)予定
- 【寒梅館クローバーホール】
- 10月15日(土) F.B.I.「10月上映会」 12:30～(12:00)
 - 10月22日(土) とんがりぼうし「定例コンサート」 時間未定
 - 11月20日(日) とんがりぼうし「EVE祭前夜祭」 時間未定

- 【寒梅館ギャラリー】
- 10月1日(土)、2日(日) 書道部「同志社大学書道部・同志社女子大学書道部2回生展「和藪」」10:00～17:00(最終日のみ16:00まで)
- 【京田辺別館会議室】
- 10月30日(日)、11月27日(日) E.S.S.「スピーチ大会」
11:30～(11:00)
 - 11月2日(水)、5日(土) E.S.S.「ディスカッション大会」
11:00～(10:30)

- 【京田辺校地ハローホール】(ホール広場前含む)
- 10月8日(土) とんがりぼうし「3回生コンサート」 時間未定
 - 10月8日(土) F・A・C「定期演奏会」 10:30～(10:15)
 - 10月12日(水)、13日(木) ピアノ研究会「定期演奏会」 12:30～
 - 10月22日(土) F.S.S.「後期オープンホールコンサート」12:30～(12:00)
 - 10月22日(土) F.S.S.「オープンコンサート」 14:00～
 - 10月25日(火) 喜劇研究会「お笑いライブ」 13:00～
 - 11月12日(土) S.M.M.A.「TRF」 11:00～
 - 11月15日(火)、16日(水) ピアノ研究会「定期演奏会」 時間未定

- 【学外】
- 10月26日(水)～30日(日) 写真同好会「秋季展」
12:00～19:00(最終日のみ18:00まで) 無料
- ギャラリー風蝶庵(地下鉄東西線 京都市役所前駅から徒歩5分)

学生保健部 歯科検診

検診から歯石除去まで無料で実施しています。
 【日程・会場】今出川校地 11月11日(金) 明徳館ラウンジ
9:30～11:00、12:00～定員(240名)に達し次第終了。
 京田辺校地 11月9日(水)、10日(木) 紫苑館2階スペースプラザ
9:30～11:00、12:00～定員(各日230名)に達し次第終了。
 【対象】本学学生・大学院生
 【申し込み】当日、学生証を持って、直接会場にてお申し込みください。
 【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3281
 京田辺校地学生支援課 TEL:0774-65-7435

応援に行こう!～体育会試合日程

開催日時、開催場所、対戦校、料金などに変更されることがあります。
 【ラグビー部】

- 10月2日(日) 12:00～ 関西大学ラグビーAリーグ
対戦校:大阪体育大学 会場:鶴見緑地グラウンド
- 10月16日(日) 14:00～ 関西大学ラグビーAリーグ
対戦校:天理大学 会場:天理親里グラウンド
- 10月23日(日) 14:00～ 関西大学ラグビーAリーグ
対戦校:関西学院大学 会場:宝ヶ池球技場
- 11月6日(日) 12:00～ 関西大学ラグビーAリーグ
対戦校:立命館大学 会場:西京極陸上競技場兼球技場
- 11月20日(日) 14:00～ 関西大学ラグビーAリーグ
対戦校:京都産業大学 会場:長居第二グラウンド
- 11月26日(土) 12:00～ 関西大学ラグビーAリーグ
対戦校:摂南大学 会場:西京極陸上競技場兼球技場

【馬術部】

- 10月1日(土)、2日(日) 9:00～ 京都府スポーツデー記念馬術大会
対戦校:京都府の乗馬クラブ、京都大学、京都産業大学、立命館大学
会場:高宮ライディングパーク 入場無料
- 11月1日(火)～6日(日) 全日本学生馬術大会
会場:三木ホースランドパーク 入場無料
- 11月26日(土)、27日(日) 京都府月例馬術大会
対戦校:京都府の乗馬クラブ、京都大学、京都産業大学、立命館大学
会場:カシオペアライディングパーク 入場無料

【ヨット部】

- 11月2日(水)～6日(日) 全日本学生ヨット選手権大会
会場:江の島ヨットハーバー 入場無料

「同志社大学 キャンパスフェスタ」 ～『同志社』に出会う。『志』にふれる。～

今秋も「同志社大学の今と未来」をお伝えすべく全国7カ所へ行って、校友・在学生のご父母・高校生の皆様と交流を行いたいと思います。皆様お誘いあわせの上、お気軽にご参加ください。

開催日	開催地	会場	講演講師
10月1日(土)	仙台	KKR HOTEL SENDAI	木村 政雄 氏(きむら まさお) フリープロデューサー、元吉本興業 常務取締役(1969年文学部卒)
10月8日(土)	福井	福井パレスホテル	木村 政雄 氏(きむら まさお) フリープロデューサー、元吉本興業 常務取締役(1969年文学部卒)
10月10日 (月・祝)	東京	六本木アカデミーヒルズ49	田尾 安志 氏(たお やすし) 野球解説者、東北楽天ゴール デンイギリス初代監督 (1976年文学部卒)
10月23日(日)	鹿児島	南日本新聞会館 みなみホール	鋤柄 俊夫 氏(すきから としお) 文化情報学部教授、博士(文化史学)
10月29日(土)	静岡	ツインメッセ静岡	浜 矩子 氏(はま のりこ) ビジネス研究科教授、同研究科長
11月19日(土)	山形	山形グランドホテル	浜 矩子 氏(はま のりこ) ビジネス研究科教授、同研究科長
11月26日(土)	広島	広島グランドインテリジェント ホテル	田尾 安志 氏(たお やすし) 野球解説者、東北楽天ゴール デンイギリス初代監督 (1976年文学部卒)

■主なプログラム(基本パターンは下記のとおりです)

- 受付開始 12:30～
- 開会 13:30 開会挨拶、大学の近況報告(八田 英二 学長)
- 講演会 14:00～

『不透明で困難な時代に立ち向かうーチャレンジするということー』
木村 政雄 氏

『篤姫以前ー鎌倉時代から続く島津と京都の強いつながりについてー』
鋤柄 俊夫 氏

『私が野球人生で学んだことー人が伸びる、人を伸ばすー』田尾 安志 氏
『グローバル経済の今とこれからー何がどうなる、何をどうする?ー』
浜 矩子 氏

- 個別学部による説明・相談&入試・学生生活相談コーナー
- 入試説明、「同志社の英語」(本学教員による英語対策講座)
- 同志社大学のキャリア支援について、地元企業などからの説明
- 交流交歓会 16:30～18:00 【会費制】3,000円

【詳細】http://www.doshisha.ac.jp/alumni/info/c_festa.html
【お問い合わせ先】企画部広報室 校友・父母課 TEL:075-251-3009

同志社創立136周年記念Reunionー 同志社大学ホームカミングデー2011 ～卒業生との出会いで学生生活は変わる!～

毎年、約3,000人の参加があります。今年は、学生と卒業生の実行委員による企画を取り入れ、「卒業生同士はもとより、卒業生と在学生をつなぐ機会を創出する」ことを狙いとして、装いも新たに様々なプログラムを用意します。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

【日時】11月6日(日) 10:00～16:30

【会場】今出川キャンパス

※京田辺校地では「同志社京田辺祭」が開催され、両キャンパス間をシャトルバスが運行(2往復程度)します。

- 志コンテスト「平成の新島裏～志を継ぐ者達の主張～」
学生の志を卒業生が支援します。個人でも、団体としての夢でもOKです。賞金総額30万円のほか、同志社OB・OGがその夢を支援します。Twitterで第一エントリーを行います(140文字以内)。「#志コンテスト」をつけてツイートするだけです。
- One Purpose Cafe「同志社人の交流会」
在学生と卒業生が一堂に会します。同志社で学ぶ、学んだ人同士が気さくに話をし、新たな出会いへのきっかけとなる交流の場です。また、当日「県人会」が

復活します。同郷の在学生と卒業生が集い交流し、職場訪問等のきっかけにもなります。

●その他のプログラム

記念撮影、学長講演、音楽祭、交流レセプション、野点、同志社版「^{はくちゅう}紫熱」教室、東日本大震災ボランティア活動報告、クラーク・チャペル パイプオルガン奉獻コンサート、クラーク・チャペル ウェディング ビデオ上映会&説明会、親子で挑戦!わくわくクイズラリー、スポーツで繋がる同志社、物産展など

*同志社大学では「東日本大震災による被害に伴う入学金及び学費減免の特別措置」を講じており、62名(2011年8月末現在)の学生が対象となっています。この学生のための募金活動を行いますので、ご協力のほどお願いいたします(銀行口座も設けましたので詳細はホームページをご覧ください)。

【詳細】<http://www.doshisha-koyu.net/index.html>

ホームカミングデー実行委員会のツイッター <http://twitter.com/#!/dhcd1106>

【お問い合わせ先】企画部広報室 校友・父母課 TEL:075-251-3009

クローバー祭(同志社京田辺祭)

11月5日(土)、6日(日)の2日間、「クローバー祭2011(同志社京田辺祭)」を開催します。今年は、京都府主催の国民文化祭や同志社大学ホームカミングデーとの連携、さらには京田辺キャンパス開校25周年記念の年でもあり、今までとはひとあじ違うものに!! 昨年までの、大学と地域が連携した新しいコミュニティの形成という観点はそのままだに、そこに学生の皆さんに多く参加していただくことで例年以上の活気あふれるお祭りを目指しています。期間中は、アーティストライブ・模擬店・体験教室などがお祭りを盛り上げます。ぜひ、京田辺キャンパスにお越しいただき、お祭りににぎわいを感じてください。

【日時】11月5日(土)、6日(日) 【場所】京田辺校地

【お問い合わせ先】クローバー祭実行スタッフ TEL:0774-65-7832

同志社EVE

同志社創立136周年を記念して、今年も今出川校地を中心に同志社EVEが開催されます。日常の学生生活・クラブ活動等で培ってきた技術をアピールする場として、学生・教職員・卒業生・地域住民の一体感を生み出す場として…講演会や演劇、演奏会等が華々しく開催されます。

【日程】EVE期間 11月1日(火)～28日(月)

出店期間 11月26日(土)～28日(月)

【場所】今出川校地

【お問い合わせ先】第136回全学EVE実行委員会 TEL:075-251-4452



WOT(ワット) = "What's on Thursdays!"

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【会場】寒梅館ハーディーホール

【料金】本学学生・教職員はすべて無料/一般は有料(下記のとおり)

●10月6日(木) 《喜劇映画パラダイス!》500円均一(各回入替制)

10:30～ 『本日休診』(1952年/96分)

監督:渋谷実 出演:柳永二郎、鶴田浩二ほか

13:00～ 『駅前旅館』(1958年/109分)

監督:豊田四郎 出演:森繁久弥、フランキー堺ほか

16:00～ 『喜劇・女は男のふるさとヨ』(1971年/90分)

監督:森崎東 出演:森繁久弥、倍賞美津子ほか

18:30～ 『ニッポン無責任時代』(1962年/86分)

監督:古澤憲吾 出演:植木等、八千穂ひるか

●10月13日(木) 『黒い雨』(1989年/123分) 10:30/13:30/16:00/18:30

監督:今村昌平 出演:田中好子、北村和夫ほか

*1,300円

●10月20日(木) 『ミツバチの羽音と地球の回転』(2010年/135分)

上映&鎌仲ひとみ監督講演

14:30～/18:30～ 映画上映 17:00～ 講演

*1,000円均一(入替なし)

第31回全日本大学ソフトテニス王座決定戦で 初優勝 関東の強豪校を倒す目標が叶った

最初はサッカーの少年団に所属していた。兄と姉がソフトテニスをしていたので、遊び半分でボールを打ってみることはありましたが、小学校3年生の終わり頃、人数が足りないということで試合に参加したのが、ほとんど初めてのテニス体験でした。その時、チームの監督に誘われて、本格的にラケットを握ることにしました。サッカーに未練はなかったですね。サッカーはチーム戦なので、試合で一度もボールに触れないこともありませんが、テニスはサーブを打って返してと、自分でボールを支配できるところが面白いと思っただけです。

小学校では愛知県の県大会3位が最高位でしたが、中学では1年生の時に県大会で団体優勝。2年生で全国大会の個人戦ダブルルスと団体戦でベスト8の成績を残しました。3年生の夏の全国大会で岡山理科大学附属高校の監督から誘われて、高校は岡山へ。高校時代は3年生のインターハイで個人優勝し、団体では準優勝。3年の時は4月から引退まで、個人戦では一度も負けたことがありませんでした。

進学にあたってまず考えたのは、何度も全国優勝している関東の大学には行かないということ。トップクラスの選手が集まったチームで優勝しても、自分の実力で勝利したという達成感を得られないだろうと思っ

たのです。もちろん同志社大学は伝統のある西日本屈指の強豪校ですが、全国大会では関東の大学に後れを取っていました。同志社で関東の大学に勝利し全国の頂点に立つことは、大きな目標でした。だから6月の全日本大学王座決定戦で、日本代表選手がたくさんいる早稲田大学を破って初優勝できたことで、自分の夢が1つ叶いました。次の目標は、全日本学生選手権大会で団体優勝すること、ナショナルメンバースとして世界選手権に出場することです。卒業後もソフトテニスは続けていくつもりですが、いつか現役を退いたら出身地の愛知県に戻って指導者になるのが、将来の夢です。体育会ソフトテニス部のキャプテンを務める中で、後輩たちにはいつも自分の意見を大事にすることを教えていますが、指導者になってもこの姿勢は変えずにいたいですね。自分と同じような選手を育てるのではなく、自分とは違うタイプの選手を育てたい。受け継がれている自由という中に

いながら、個々にはしっかりと自分というものを持っている人が多いのが同志社大学です。1人ひとりの人間性を大切にしている伝統を、僕自身がまた伝えていきたいと思っています。

※8月6日に行われた全日本学生選手権大会では、個人戦ダブルスで優勝、団体戦でも優勝の成績をおさめた。



柴田 章平さん
【スポーツ健康科学部4年次生】

